

2022 第 58 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 4 年 7 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部

〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

焼岳を望む (河童橋)

水彩画 小菅 一弘

夏山シーズン到来☺感染対策を怠らず「With コロナ」で楽しもう！ 千葉支部長 松田宏也

令和 4 年度の支部定期総会が 5 月 8 日、千葉市生涯学習センターで開催され、すべての議案が承認可決されました。新役員の体制のもと今年度もより良いクラブライフを実感できる支部になれるよう努力していきたいと思います。皆さんのご協力をお願い致します。総会後は「コロナと登山」をテーマに日本山岳会常務理事で山岳ライターの柏澄子さんに現状の山小屋の取組みを中心に記念講演をしていただきました。コロナの緊急事態宣言から 2 年が過ぎても未だに感染者数は増減を繰り返す不穏な日々が続いています。それでもワクチン接種による安心感と日常でのこまめな対応が浸透するにつれ、窮屈な生活を見直す動きが出て来たように思えます。夜の街にも徐々に人が戻り賑やかになってきました。山もしかりです。山小屋も登山者も「With コロナ」の意味と対応の仕方を覚え、互いに協力しながら楽しむ空気になってきたように感じます。

いよいよ夏山のシーズンの始まりです。密にならないところではマスクをはずし、思いっきり清々しい空気を吸いたいものです。コロナ禍ですっかりたるんだ身体に夏の山道はきついと思いますが、ビスタリ、ビスタリで歩きたいものです。コロナから 3 年目の夏は今まで以上に山の魅力を再実感し新たな感動が山からもたされるような気がします。だからこそ、安全第一でしっかりと計画をたて、一人一人が余裕をもって山に向かって欲しいと思います。

さて、8 月 11 日の山の日講演会が迫って来ました。千葉県山岳 3 団体が設立した房総の山復興プロジェクトの一大イベントになります。多くの入場者が見込まれますので、スムーズに講演会が進められるよう皆さんのお手伝いをよろしくお願いいたします。

早いもので房総 Base を設立し丸 1 年が過ぎました。多くの方々のご支援に支えられ無事に 1 年を迎えることができました。会員の親睦はもちろん、他支部の方々との交流の場としても多くのご利用をいただきました。今後も多くの方々に利用して頂けるよう「来た時よりも少しキレイに！」のスローガンを守り維持管理に努めたいと思います。

最後に、私事ではありますがミニヤコンカ遭難からちょうど 40 年となります。この節目の年に「ミニヤコンカ奇跡の生還」に続いて発刊した「足よ手よ僕はまた登る」がこの度ヤマケイ文庫として発売されました。この本は 84 年に発刊、日本に帰国後から社会復帰までを著した本ですが、今回の文庫化に際し社会復帰から再び山を目指し、2020 年のグレートヒマラヤトラバースまでを加筆しています。お買い求めいただければうれしい限りです。(発売 6 月中旬～)



〔 目次 〕

・ヤマテン代表猪熊さんの山の天気講習会	p 2
・山行記録 桐生吾妻山、奥高尾・小仏城山と景信山、笠森観音、岩櫃山と大隅桜、ミツバツツジ満開の大塚山	p 3～5
・支部総会と柏澄子さん「コロナと登山」講演会	p 5
・自然学クラブ巡検一土浦、高尾、足和田山	p 6～7
・山行記録 栃木・月山と夫婦山、青空の屋久島、雨に煙る新緑の川苔山、新緑の奥多摩（高水三山）、 花の島・佐渡島、砂金？光る曲り沢、キャンプ DE 瑞牆山	p 7～11
・こんにちは 今井貴朗	p 11
・あの日の山 きつねにつままれたような山行 小林義亮	p 12
・ウォーキングクラブ活動報告—佐倉、都内の花見、成田 宇津木仁典	p 13
・支部山行の予定	p 13～15
・事務局からのお知らせ	p 16

● ヤマテン代表の猪熊さんを招き山の天気講習会を開催 ●

3月26日（座学）千葉市生涯学習センター、27日（ライブ）津森山

桜の開花が始まるなか、猪熊講師（JAC 会員、ヤマテン代表）をお招きして「山の天気」座学と津森山でのライブ授業を行いました。

座学には千葉支部以外にも他支部や一般参加の方も含め 37 名が参加しました。「だれでも見られる天気予報を利用している人が遭難している」「計画書は出す事ではない、リスクの想定と対応策が重要」との話から始まりました。雲がなぜできるか？もわからず、「てるてる坊主をお願いしたから今日は晴れ！」の登山者のなんと多いことか。チョコちゃんに叱られるのごとく「ボーっと生きてんじゃねーよ！」です。天気図の見方から気象遭難の実例までをわかりやすく説明していただきました。

翌日は、房総 Base 近くの津森山で実際に雲の動き、風向きをチェックしながらのライブ授業に 11 名が参加しました。猪熊講師ありがとうございました。（松田宏也）



熱心に勉強中です。



津森山登山口に向かいながらライブ授業

50歳未満は入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金 1,000 円と 2 年間の年会費（正会員 1,500 円または会友 3,000 円）を免除します。

桐生吾妻山

平出 正美

山行日/天気：3月30日（晴れ）

参加者：L 小川和敏、三品京子、宮崎美智代、
平出正美（4名）

タイム：吾妻公園登山口 8：45→トンビ岩 9：00→
吾妻山頂 9：45～10：00→堂所山 10：15→
岩木戸山 11：00→萱野山 11：30～12：30→
岩木戸山 12：45→堂所山 13：15→吾妻山
13：30→登山口 14：15



桐生市民の森をのんびりと久しぶりな登山のイメージで申し込みましたが届いた計画表に

は山の文字がいくつもありリーダーからは行けるところまでと出発前の説明。千葉を出る寸前まで雨が降っていたのが嘘のように北関東は晴天で駐車場のソメイヨシノ桜は満開、カタクリとスミレがチラホラ、遠くに赤城山や浅間山が展望出来、帰り道では小さな姫ネズミが挨拶に出てくれた。



登山口からすぐに第一男坂、女坂が現れ全員が男坂へ急登の岩場の後で桐生の街並みが一望のトンビ岩。そして第二男坂を経て吾妻山 481m

頂上で一本の河津桜が満開と、わずかの標高差で二種類の桜を楽しめた。そこから関東ふれあいの道を進みいくつかのアップダウンを繰り返して本日の最高峰菅野山mで昼食。小川リーダーからスープとコーヒーをご馳走になり、しばしのんびり休憩しました 500m前後のピークをいくつか超え急登な岩場もあり、私にとってはAでなくB又はCと思えた春の山行でした。



奥高尾・小仏城山と景信山

中田 彩

山行日/天候：4月1日（晴れ）

参加者：L 三田博、三田芳江、小川和敏、三品京子、
宮崎美智代、中田彩（6名）

タイム：林道日影線入り口；9：15→小仏・城山；11：00→
小仏峠；11：30→景信山；12：00～12：45→
梅の里バス停 14：00



地図読みを学びながら、春の裏高尾を歩いてきました。寒気のため風は冷たいが、春らしい良い天気。日影沢を渡り、

城山の斜面に取り付く。200メートルの急登ののち、尾根道へ。山道は、花いっぱい。二輪草、堇、木五倍子、紅葉苺、寒葵。急登が一段落した肩で地図読み。送電線は良い目印。城山にある鉄塔は地図では丸に波線。三角点は地図でも△。ためになります。

最後の坂を登り、城山到着。すいとん、なめこ汁、おでん…。茶屋のメニューが魅力的。休憩後、小仏峠へ。信楽焼の狸前で記念撮影後、景信山へ。アップダウンを繰り返して

気持ちの良い尾根道を進み、景信山到着。関東平野、丹沢、富士山が一望の絶景。三品さんのスープ、小川さんのYAMAP コーヒーで心も体も温かい（^^）。



下りは登山道から外れ、地図で位置を確認しつつ、尾根道を下る。踏み跡があり助かる。急斜面を下り、木下沢梅林へ。出発から5時間弱で帰着。皆さん、余裕の山行でした。



笠森観音

吉野 聡

山行日/天候：4月9日（晴れ）

参加者：L 三品京子、国宗文、高橋琢子、平出正美、三田博、三田芳江、宮崎美智代、吉野聡（8名）

タイム：笠森観音 10：00→百山望 10：30→夕焼け台 11：20→野見金公園 ミハラシテラス 12：00→夕焼け台 14：00→笠森観音 15：10

満開の桜を見下ろしてそびえ建つ四方懸造り（しほうかけづくり）の笠森観音堂の裏手からカシヤスダジイが生い茂る笠森自然林の尾根道に入る。この道は10年前、全国支部懇が千葉で開催された際（平成24年10月）に全国の仲間たちと歩いた懐かしいコース。

しばらく歩くと、笠森霊園南尾根で長柄町六地藏方面からの房総半島分水嶺に合流し、百山望、夕焼け台を経て急坂を下り舗装道路を横断、蔵持から野見金公園へと進む。緑の中、独特の赤色の新芽に目を奪われたり、満開の桜から散る花びらのシャワーを浴びたりと、春を実感しながら

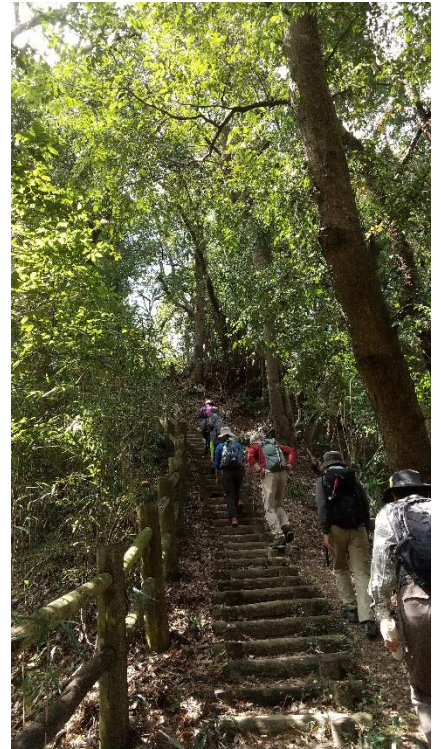


ゆっくり歩く。休憩の野見金公園ではネモフィラの花絨毯と展望台（ミハラシテラス）からの広大な房総の森の景観に思わず「イイネ～」と言葉を口にする。

帰路、蔵持ダム近くまで山菜の探索に立ち寄ったところで、男性（以下、仮称：HIROさん）と出会う。HIROさんは、この周辺の山に大変に詳しく、抜け道を案内してもらうことになった。まさに「道なき道」を歩き、昔の分水嶺踏査の山が思い起こされた。

話を伺うと、自然や地質に興味を持ち独自に山歩きを続けているとのこと。千葉支部への入会を勧めたところ、迷わず会友になっていただいた。

HIROさんが、千葉支部と共に充実した山行を続けられることを期待いたします。



岩櫃山と大隅桜

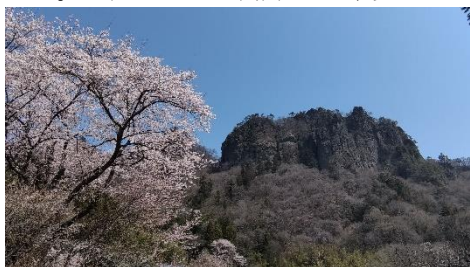
三田 芳江

山行日/天候：4月10日（晴れ）

参加者：L 三田芳江、山口文嗣、三田博、三品京子、宮崎美智代、中田彩（6名）

タイム：密岩登山口 10：30→岩櫃山 11：40→岩櫃城本丸跡 12：45→赤岩登山口 13：50→古谷登山口 14：10

一面の青空、初夏のような陽気の中、ぐんま百名山の岩櫃山（802m）に登った。駐車場から眺める岩櫃山は断崖絶壁、奇岩、怪石からなる切り立った山容でその険しさに圧倒される。登山口近くの大隅桜が満開で岩櫃



山との見事なコラボで目を楽しませてくれる。みんな写真を撮るのに夢中。登山口から急登が1時間。鞍部で一息つき、さらに

何度も鎖や梯子を使い岩場と急登を繰り返して山頂へ。怖さを克服した彩さんの嬉しそうなようすにこちらまで嬉しくなる。

眼前に広がる上州の山々、雪が残る白根山、絶景のご褒美を満喫。沢通りから中腹にある武田三堅城の一



つ、真田氏の拠点だった岩櫃城本丸跡へ向かう。山城の地形を見て戦国時代に思いを馳せた。岩櫃山は岩櫃城を守る自然の要害だったのだな…ゆっくり昼食を取り、尾根通りから赤岩通り、清龍院跡を抜け無事に登山口へ。短時間でスリル、絶景、歴史を楽しめたいい山でした。

岩櫃山（いわびつやま）とは

岩櫃山は、標高802メートルの岩山で、吾妻八景を代表する景勝地として知られています。南面は約200メートルの絶壁。奇岩、怪石からなる切り立った山容は、中国の南画のような趣があります。山頂からの眺望はすばらしく、眼下には東吾妻町や中之条町の市街地、眼前には上州の山々が広がり、晴れた日には遠く富士山も望めます。新緑と紅葉のシーズンには多くのハイカーでにぎわいます。（東吾妻町の観光情報より）

ミツバツツジ満開の大塚山

三品 京子

山行日/天候：4月16日（晴れ）

参加者：L 今井貴朗、柳川しげよ、三品京子

タイム：鉄五郎新道登山口 10:10→広沢山 11:45→大塚山
12:10→御岳山 13:10→古里駅 15:30

イワウチワの群落の言葉に誘われ参加、鉄五郎新道から登山を開始。沢沿いの尾根道を登り30分、金毘羅神社へ着き小休憩。リーダーからここからイワウチワの群生地との説明、ただし目の



前にはヤセ尾根の急登が待っている。気を付けて花を探しているも見つけることが出来ず1時間ひたすら登る。

すれ違った登山者に聞くと3輪咲いていましたよと。あー残念！見逃してしまったようだ。今年は開花時期が早かったと諦めたが、その代わりと言ったら花に失礼だがミツバツツジが尾根道の崖にピンクの花を咲かせ疲れを癒してくれる。大塚山山頂で昼食を済ませ御岳山へ穏やかな登山道を進んで行くと、今度はピンクのトンネルが続く道が待っていた、御岳神社の参道を登り、お参りして山頂に到着。

下山の丹三郎コースには足元に広がるカタクリの群落が待っていた。緩やかな足に優しいコースに助けられ古里駅に。春を堪能した一日となった。



● 支部総会に柏澄子さんを迎え「コロナと登山」講習会を開催 ●

千葉支部の令和4年度定期総会が5月8日（日）、千葉市生涯学習センターで開催された。総会には会員24名、会友4名が出席した。（書面による議決権は34通）。令和3年度の事業報告、収支決算報告、監査報告と令和4年度の事業計画、収支予算、役員選出などの議案が提出され、満場一致ですべて承認された。当日ご出席、または議決権行使書をご提出いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



総会は1時間ほどで終了し、休憩時間を使ってスケッチアートクラブの絵画や写真同好会の作品を鑑賞した。

続いて、日本山岳会常務理事で山岳ライターの柏澄子さんによる記念講演が行われた。「コロナと登山」と題して、コロナ発生を受けて集まった人たち「team KOI」の活動を中心に、スライドを多用して山小屋や医療態勢の状況を講演した。参加者はこれまでとは違った、今後の登山の楽しみ方を、この講演をきっかけに考えることができたと思う。





自然学・第11回巡検 三角州の土浦と霞ヶ浦

2022年3月12日(土) 晴れ

参加者：稲川由紀・薫平・駿太、鎌谷繁、国宗文、黒住清美、香高真奈美、塩塚生二、廣村恵美子、高橋琢子、竹園清隆、中場義則・久美、西尾佳子、山口文嗣、山田紀夫、吉永英明、三木雄三(L)。

霞ヶ浦が最も奥まった所の土浦は、三角州に成り立った都市の一つで、霞ヶ浦は「下末吉海進期」と呼ばれた約10万年前、今の千葉県匝瑳市あたりから内陸部に向かって広がった古東京湾の一部だった。古墳や埴輪が多く出土した山武地方はこうした海の入りにあたり、匝瑳・八日市場地方の「椿の海」という地名が海だった面影を今に伝え、丸木舟など縄文時代の遺物も数多く見つかっている。

土浦駅から歩く。大通りは緩くカーブし、川の流れたことを物語っている。かつて筑波山方向から何本もの川が流れ、人は川の流れと流れの間に住み着いた。サクラが咲き始めた土浦城＝写真＝の外濠も川の流れを利用した。

航空写真を見ると一目瞭然、大阪や広島、新潟の都市も、三角州の地形に発達したことがわかる。巡検参加者は熱心な勉強家が多く、「山のふもとの扇状地にも行ってみたい」の声もあがった。顕著な地形が広がる安曇野あたりを考えている。

秀峰・筑波山を背景にした霞ヶ浦まで歩いた。このあたりの高台は縄文時代の集落跡や貝塚もあり、すぐ近くまで迫った海で、古代の人々は暮らしていた。

湖に出ると、常陸台地が霞ヶ浦全体を取り囲んでいるのが分かる。そのずっと奥は千葉。下総台地で、常陸と下総を合わせた台地を常総台地と呼ぶ。

稲川さんの長男で初参加の駿太さんは「とても面白く勉強になった。山を歩いているいろいろなことを知りたい」と話していた。



自然学・第12回巡検 高尾山は奇跡の山

2022年4月2日(土) 晴れ

参加者：宇津木仁典、国宗文、黒住清美、塩塚生二、廣村恵美子、高橋琢子、竹園清隆、中場義則、山口文嗣、吉永英明、三木雄三(L)。

高尾山は標高600メートルに満たない小さな山。しかし、植物の種類は1500種を上回り、日本全国に生息する植物の約30パーセントを高尾が占める。また、地層は小仏峠に因んだ「小仏層」と呼ばれ、陣馬山など関東山地南部、相模川北側に分布する1億1200万年～7400万年前の中生代白亜紀と推定される。まだ日本列島はなく、日本海もない「大陸棚の時代」に、海底の底深く堆積した砂や泥が造山運動で盛り上がり、高尾山という「奇跡の山」になった。

JR 高尾駅からバスで日影バス停下車。別コースで裏高尾に向かう三田さん率いる6人と合流、合同で出発前のミーティングを行った。我々11人はダンコウバイ、アブラチャンの黄色い花やニリンソウの群落が出迎える林道を進む。ほどなく湧き水が流れる北斜面の地層の隙間でラッキーな出来事があった。山地の森林に生息する貴重なタゴガエルの鳴き声を聴くことが出来たのだ。実に幸運だった。



富士や丹沢を臨む城山で昼食後、尾根を高尾山方面に進むと南斜面ではシイ、カシ類など常緑樹が多いのに対し、北斜面は落葉樹のイヌブナ、ブナ、モミジ、カエデと性格の異なる植生であることも見た。高尾のブナの樹齢は約300年。現代より気温が低かった江戸時代から生き延びている。「一木一草たりとも伐採を禁じる」との厳しい山岳宗教の教えが、高尾山の豊かな植物を守ってきた。山の斜面に、ほぼ垂直に傾いた小仏層の大きな露頭＝写真＝があった。山に春を告げるキブシの花が、まだ冷たい風に揺れていた。

自然学・第13回巡検 足和田山と青木ヶ原樹海

2022年5月21日(土) 曇りのち雨

参加者：鎌谷繁、黒住清美、塩塚生二、長谷川博、廣村恵美子、高橋琢子、竹園清隆、中場義則、山口文嗣、山田紀夫、柳川しげよ、三木雄三(L)。

足和田山(1355m)は、約100万年前の伊豆の衝突で隆起し山になった。青木ヶ原樹海は、平安時代の西暦846年に富士山で起きた「貞観の大噴火」で流れ出た溶岩流が一带を焼きつくして出来た。その溶岩流は「古せの海」と呼ばれた一つの大きな湖を本栖湖、精進湖、西湖に分断。溶岩流の上にはやがて植物が育ち、「樹海」と呼ばれ、今、樹齢300年の樹林帯となった。その広さは山手線内側の約半分、東京ディズニーリゾート6個分の広さにあたる。

午前9時半に河口湖駅に集合、路線バスで登山口の本木バス停に向かう。足和田山へはいきなりの急登。ブナの混じったアカマツ林の新緑が霧にかすんで幻想的だ。ヤマツツジの花も残り、苦しい登りも癒される。

1時間登って、大きな岩がある所で小休止。「あれっ」。その岩が礫岩だった。礫岩は浅い海の海底にたまっていた粘土層に、洪水によって山から運び出された砂利が混じり、粘土が接着剤の役割をはたして固まった岩。これこ



そ、この山がかつては海だった痕跡を示すもので一同大興奮。ここで記念撮影した=写真=。

女性のトレイルラン大会が開かれていた山頂に着くと霧の中に富士の「大室山」が浮かんできた。千円札にある富士山の左側に描かれたのが大室山で、噴火して青木ヶ原を生み出した側火山の一つ。「今度、行きましょう」との声も聞かれた。

礫層のある尾根を歩くと三湖台のピーク。晴れていれば西湖、精進湖、本栖湖が望めることが名の由来。小雨になり、青木ヶ原もかすんでいた。

栃木・月山と夫婦山

三田 博

山行日/天候：4月23日(晴れ)～24日(曇り)

参加者：L三田博、三田芳江、三品京子、宮崎美智代

タイム：日陰牧場10:15→月山登山口10:50→月山

11:30→夫婦山13:50→日陰牧場14:50



いつもの顔ぶれで日光栗山へアカヤシオを愛でに出掛けた。栗山ダム手前の日陰牧場ゲートに駐車、

歩いてトンネルを抜けると遠くの山はあちこちピンクの群落が目立つ。BBQ広場向かいの月山登山口から急斜面をひと登りすると、アカヤシオが満開で思わず笑みがこぼれる。1時間ぐらいで登れる簡単な山ですが、山頂まで可愛いピンクの花がずっと咲いていてなかなか進めない。山頂には「栃木百名山 月山」の標識があった。いったん

栗山ダムに下り、次は夫婦山を目指す。送電線監視路を登り東尾根を歩くが、踏み跡は薄く足元はクマ笹と鹿の糞だらけ。尾根道のアップダウンを1時間30分ほど歩くと夫婦山に到着。さっき登った月山とその向こうに女峰山がよく見えた。



宿泊は栗山郷「家康の里」の民宿で、名物の囲炉裏料理を味わった。シカ肉の刺身、サンショウウオの串焼きなど珍しいものを肴に、女将のお酌で竹筒の熱鬧をグイっと。翌日は霧降高原に車を置いて大山に登り、隠れ三滝を歩いた。人も少なく、静かな山歩きを楽しむことができた。



青空の屋久島

今井 貴朗

※個人山行

山行日/天気：4月8日（晴）、9日（晴）、10日（晴）、
11日（雨）

参加者：L小川和敏、今井貴朗（2名）

タイム：

8日：成田空港8:10⇒鹿児島港13:20⇒宮之浦15:30⇒
西部林道⇒安房17:30

9日：登山口6:40⇒万代杉9:00⇒モッチョム岳11:10⇒
登山口15:30⇒尾之間温泉⇒永田

10日：永田8:00⇒白谷雲水峡9:00⇒太鼓岩11:30⇒
宮之浦13:00⇒羽神の滝16:00⇒永田17:15

11日：永田8:15⇒ヤクスギ自然館9:00⇒
安房港11:00/13:30⇒鹿児島港16:00

1日目：始発電車に飛び乗り成田空港へ。永く憧れ続けていた屋久島へ向かうと思うとワクワクする。今回のベテランガイド？の小川氏と空港で待合せ、一路鹿児島空港へ。昼食はお奨めの蕎麦を堪能し、桜島の雄大な姿を目に納め高速艇で屋久島・宮之浦港向かう。錦江湾出口が近づくと百名山である開聞岳の綺麗な円錐形の姿が迫ってきた。

いよいよ屋久島に上陸し、明日の朝食やバーナーのガス等を手配し西部林道を通して島をほぼ一周、安房に泊まる。林道では多くのヤク猿、ヤク鹿と出遭い、野生動物、自然の濃密さを堪能した。



2日目：モッチョム岳を目指し早朝出発、登山口の展望台からモッチョム岳の雄姿、千尋の滝を眺める。朝日の眩しい中いよいよ登り始めるが、最初

から結構な急登だ。青空の下、照葉樹林を進むと突然巨大杉に出遭う、悠久の時間を感じさせる万代杉だ。休憩後、登山道は一段と険しくなり疲労感も増してくる。漸く神山展望台に着き、目前に迫ったモッチョム岳頂上へ力をふり絞



るが、ここからかなりのダウン・アップが2回ほど。最後の岩壁をよじ登り広がる絶景を手に入れて感動。眼下に広がる紺碧の海、振り返ると屋久島の急峻な山々が連なる。

下山も滑り易い登山道に注意しながら無事登山口着、充実感に満ち溢れる。千尋の滝を眺めて尾之間温泉で疲れを癒し、今日の宿泊地永田へ。

3日目：前日の心地よい疲労感が残る中、のんびりと白谷雲水峡へ。屋久島らしい溪流と杉のコントラスト、苔の谷には癒される。ハイキング程度と思っていたが、なかなかどうして、かなり歩きがよいあるコース。軽く汗をかきながら、太鼓岩への最後の登りを締めると想像を超える絶景



が目の前に広がった。

まずは最高峰の宮之浦岳と翁岳などの奥岳、その稜線を追うと天柱石を抱く太忠岳などの雄姿が、これぞ屋久島か。裾野を追っていくと杉の濃緑、オナガカエデの淡緑、山桜の淡桃などのモザイク模様に目を奪われる。ベテラン小川氏も感動する稀に見る絶景が青空の下で広がった。感動の余韻を引き連れて謎の滝？に向かうと、そこは登山道の無いワイルドなルート。経験者が同行し心強いが、探索しながら辿り着いた滝は繊細さと気品、圧倒的な高度感を持つ秘境、羽神の滝であった。

4日目：本日は雨、午後に鹿児島へ戻ることもあり、のんびりと屋久杉自然館へ。屋久島の自然と屋久杉の歴史、その中での人々の暮らしを改めて知ることが出来た。最後に屋久島の雨を経験出来て良かった、やっぱり屋久島は雨の島だから。お土産を購入し、名物の屋久島うどんを堪能して高速艇にて鹿児島港へ戻った。



雨に煙る新緑の川苔山

上條 誠一郎

山行日/天気:5月1日(曇りのち雨)

参加者:CL 今井貴朗、SL 三品京子、小川和敏、塩塚生二
上條誠一郎(5名)

タイム:鳩ノ巣駅 10:00→大根ノ山ノ神 10:45→
船井戸 12:35→川苔山 12:55→船井戸 13:50→
大根ノ山ノ神 15:10→鳩ノ巣駅 15:45

当日は12時過ぎから雨予報で、午前中も曇りでジメッとした天気だった。10:00に鳩ノ巣駅を出発し、メンバーの1人から地図には載っていない神社の脇の道を教えてもらいその道を登り始めた。じつは今回の山行、名瀑である百尋ノ滝を見に行きたかったが、現在斜面が崩壊した影響で百尋ノ滝を通るコースが通行禁止になっているため、鳩ノ巣駅から川苔山に登り古里駅に下るコースになってしまった。登山口から奥多摩の新緑を楽しみつつ緩い登山道を歩いていたが、やがて急な登りになり各々のペースに差が出てきたため、ベテランのO氏に殿(しんがり)を任せて先に進んだ。山頂の手前の船井戸に着いた辺りからガスが出始め、やがて雨もパラパラと降り始め山頂からの展望



に進んだ。山頂の手前の船井戸に着いた辺りからガスが出始め、やがて雨もパラパラと降り始め山頂からの展望

は皆無だった。

早めに山頂についた3人で集合写真を撮り、殿を務めていたO氏が山頂につく頃には本降りになってきたので、急遽、来た道を下り鳩ノ巣駅に下山することにした。

雨が降っているので、新緑と雨の景色を眺めながらもさっさと下山した。残念ながら、鳩ノ巣駅に反省会ができるようなお店がなかったので、駅前の四阿で休憩し電車に乗り解散した。

今回の山行は途中から雨がふってしまったが奥多摩の新緑を存分に楽しめた。

次に登るときは百尋ノ滝を見たい。



新緑の高水三山

小林 みゆき

- ・山行日/天候:5月21日(晴)
- ・参加者:CL 藤木玄三六、SL 黒木勇太、関谷晶子、小林みゆき(4名)
- ・タイム:軍畑駅 9:55→砂防ダム 10:40→高水山 11:55→岩茸石山 12:25→惣岳山 13:41→御嶽駅 15:00



前日の雨で澄んだ空気の中、JR 軍畑駅に集合。駅には山行目当ての複数の団体で軽く50人は集まっていた。今回初の奥多摩での山行となったが、集客力はさすが都内の山行スポットだと感じた。高水山、岩茸石山、惣岳山を高水三山と呼ぶとのこと。駅から45分ほど歩き登山口に到着。山道植林帯をジグザグに登っていき、数度休憩を挟みながらまずは高水山に到着。あまり眺望も望めない

場所だったので、早々に次の目的地岩茸石山を目指す。ガレた道を下って雑木林の中を登り返すと、西と北が開けた

岩茸石山頂に到着。都心まで一望出来る絶景ポイントで昼食とした。しばらくすると駅で見かけた団体御一行がシートを敷き始め、思い思いの昼食をとり始めた。ボールに小麦粉を水で溶く人がいると思ったら、なんとこれからたい焼きを焼くそうだ。そのような日常では目に出来ない様子もまた、皆で楽しんだ。

最後の目的地惣岳山頂を目指す。惣岳山頂は青渭神社の境内で、眺望はないが静かな樹林に囲まれた趣のあるところだった。ひと休みしたら御嶽駅まで一気に下山し、駅で解散。新緑の奥多摩で清々しい空気と心地よい涼風に吹かれ、最高のリフレッシュとなった。



花の島・佐渡島

三品 京子

※個人山行

山行日/天候：5月18日～22日（ほぼ晴れ）

参加者：CL 三品京子、SL 平出正美、節田重節・奥さま、吉永英明、渡部孝雄、今井貴朗、小川和敏、吉田望、宮崎美千代（10名）

タイム：・一日目 栗ヶ沢登山口 10:00→神子岩 11:00→金北山 12:00→登山口 15:00 ・三日目 アオネバ登山口 8:00→ドンデン山荘 12:00→尻立山 13:00→アオネバ十字路 14:00→登山口 15:00

前回の突然の雹とその後の強烈な突風に見舞われた秋の佐渡島、今回、花の季節にリベンジです。栗ヶ沢登山口をスタート、さっそくの高山植物のお出迎え・・・オオイワカガミ・ニリンソウ・エンレイソウ・キケマンにショウジョウバカマ・カタクリと花の道を登り金北山へ、ミネザクラが山頂でひっそりと咲いていました。



2日目は島内観光に繰り出す。北沢選鉱場や宿根木集落散策の後に、夕暮まじかとなり朱鷺を探しに新穂へ行く。ラッキーなことにトキテラスから5、6羽が寝床へと帰って行く姿を見る事が出来ました。

最終日、アオネバ登山口からドンデン山荘へ。登山道は初日同様に高山植物の花が待っていてくれた。吉田さんが持参した「佐渡の花図鑑」を見て不明な花の名前を探しながら沢沿いを登り到着。昼食は話題の青いカレーを美味しく頂く。

尻立山経由で登山口に戻る道を進むと怪しいピンクテープを発見。奥に何かありそう！ガードレールを乗り越え林の中を行くと何とシラネアオイの大群落を発見。これでもかの花畑にしばし写真撮影の時間となった。

今回も節田会員の実家にお世話になり、毎晩の反省会は佐渡島の御馳走とお酒で大いに盛り上がった。



砂金？光る曲り沢

竹内 進

山行日/天候：5月28日(晴れ)

参加者：L 三田 博、三品京子、三田芳江、宮崎美智代、竹内 進(5名)

タイム：景德院P 9:15→入溪 10:20→二股 12:20→大谷ヶ丸稜線 13:20→景德院P 15:55

蘇我駅前を6時前発。中央道で事故渋滞に遭遇するも大菩薩峠への県道脇のトイレのある市営景德院Pに9時過ぎ着。曲り沢林道を歩き、林道終点の堰堤のある二俣から本



流の踏み跡を辿り入溪。明るく開けた沢で、両岸が狭まった廊下状も、2mを超える急な滝も無く圧迫感を感じない。花崗岩の河床で、そこそこ摩擦の効く小滝、ナメ滝、川原が連続する中を登る。足

元の砂の中に光るものが多く見え、さすが山梨県、砂金だとはしゃぎながら進む。直径が2m近くあるトチノキとおぼしき巨大な倒木を過ぎ、その先の二俣で昼食。

右俣に進み、更に枝分かれが続く沢の源頭部を選びながら稜線を目指す。傾斜が増し、左の支尾根に取付く。思いのほか急峻で両側が切れ落ちた痩せ尾根で高度感満点。木の幹、枝、根を頼りに慎重に登る。沢をそのまま直上したら突き当たっていた落葉が厚く積もった手がかりの無い急傾斜の土壁が目前に見え、ルート選択の適切さに安堵。広いならかな主稜線に出る。数分前までを思うと天国。沢装備を解き、歩き易い登山道を下り、武田勝頼親子が自刃した生害石や墓のある景德院本堂の脇を通り、駐車場に戻る。詰めが厳しい沢でした。



キャンプDE瑞牆山

三田 博

山行日/天候：6月3日～4日（晴れ）

参加者：CL 今井貴朗、SL 三品京子、三田博、小川和敏、宮崎美智代、上田慶太（会員外）6名

タイム：キャンプ場 6：30→不動滝 7：50→9：40 瑞牆山 10：15→11：30 富士見小屋 12：00→12：45 キャンプ場

市原出発組は初日、首都高の渋滞を避けるために早めに出発、信州峠から横尾山を登った。往復で3時間もかからないが、南アルプス、八ヶ岳の両方が望める静かでよい山だった。下山後はみずがき山自然公園でテントを張り、さっそく缶ビールで乾杯していると、今井さんたち3人が到着。テント張りもそこそこに、全員揃ったので明るいうちから宴会に突入した。食材を色々用意してくれたリーダーありがとうございました。車を横付けできるオートキャンプなので本当に



ラクチンでした。

今井さんの前日の予言通り、登山当日は朝から晴れ。テントを畳み、スープ、パン、ウインナー、目玉焼きの朝食を摂り6：30には出発した。林道終点で体操し、不動沢沿いの樹林帯を登る。小一時間ほどで不動滝。明るい花崗岩の優美なスラブ滝だった。そこから再び息が切れるほど急な登山道をシャクナゲの花に励まされて登った。分岐で息を

整え、10分で瑞牆山の頂上に着いた。さすが百名山、岩場の頂上は人でいっぱいだった。雲が少しかかっているが富士山もよく見えた。帰りはゴーロの急斜面。南面で日当たりが良いからか、シャクナゲが満開だった。

富士見小屋で昼食休憩後、新緑のゆるやかな尾根とみずがき林道を経由してキャンプ場へ

戻った。今回、すれ違う登山者に若い人が多くて驚いた。立ち寄った富士見小屋も若者がいっぱい。やっぱり百名山はどこも人気なのですね。

♪ こんにちは ♪

初めまして、大網白里市に住んでいます今井貴朗です。昨年秋より協力委員として山行計画を担当させて頂いています。



私の山との出会いは結構早く、小学校低学年の時にボーイスカウトに参加したことに始まります。年4～5回ほど、山で

のキャンプを楽しんでいました。山といっても里山のような標高1,000m以下の山々ですが、小学生の私には大きくて登るのもたいへんだった記憶があります。高校生になると友人と気紛れに山に登る程度、これも1,000m以下の地元の山でした。でも頂上へ辿り着いた爽快感、展望は何か私に語りかけるようなものがありました。

大学時代はバイク旅、スキーに熱中して、登山することは全くありませんでした。何故だか旅先で美しい山々を眺めるだけで満足していたように思います。この山を眺めるという意識が今の登山に繋がっているような気がします。現在の登山スタイルも風景を楽しむ景色派？です。

社会人になって山好きの友人に誘われ、主に八ヶ岳に

登るようになり登るといふ楽しみに目覚めたように思います。やがてアルプスにも登るようになり、社会人の山岳会に所属して登山を楽しむようになりました。この頃が私の最盛期、北アから南ア、南八ヶ岳に頻繁に通うようになり、新宿駅のアルプス広場で夜行列車に乗るのが週末の楽しみとなりました。ところが30歳の声を聞き結婚すると、あっさりと登山引退し、主だった山道具も全て処分してしまいました。

再開は定年が近くなって、会社の先輩に誘われて那須岳に登り、一気に登山へ気持ちが蘇ってきました。それからというもの、主にソロで里山から徐々に秩父、アルプスへと足が伸びていきました。若い頃は技術不足も体力でカバーした様な登山をしていたように思いますが今は、体力の低下を感じながらも、年齢に応じた登山ができればと思っています。私の嗜好としては主に景色を楽しむ縦走ですが、里山から3,000m級のアルプス、離島の山々を楽しんでいければと思っています。またバイクで山深く林道を散策、ついでに登山も楽しんでいます。登山道具の進歩で、軽くなったテントを担いでの登山も楽しんでいます。座右の名は「山高きが故に貴からず」、美しい山々に高さは関係ありません。

写真は昨年の両神山と、まだ髪の毛がふさふさだった20代の黒部源流縦走した時のものです。



あ の 日 の 山

狐につままれたような山行



小林 義亮



いつのまにか 80 歳を過ぎてしまった。生を受けたのは京都南山城の標高 300 メートル足らずではあるが、山上の準ボツンと一軒家であった。友達がいないので、物心ついて以来、一人、山中で過ごした。学校も山の下まで毎日通っていたのでこれもトレーニングだった。何とか足腰が丈夫で今も元気で山を楽しむ原点はここにある。



学生時代は家から全く仕送り無しの貧乏学生だったので時間も経済的な余裕もなく諸先輩と違って学生時代に山岳部に入りヒマラヤや穂高に憧れるという贅沢な選択は高根の花であり、また子供時代からの孤高で群れない性格がそれを忌避したのかも知れない。

そんなわけで海外登山には縁がなく、キナバルと台湾の玉山、雪山くらいのもので、このコラムも諸先輩方のように海外の「あの日」の思い出は書けない。

皆さんに紹介するのは道迷いの話である。麓の国道に出てからも自分は正規のコースを歩いてきたと勘違いしていたあまり人に言えない経験である。場所は中央線三つ峠近くの大沢山。今から 31 年前のこと。単独行で、コースは笹子から大沢山（1460 メートル）に登り清八峠経由で笹子駅に戻る 5～6 時間のコースである。

甲州街道から分け入った山道は細く笹や灌木、イバラが道を塞ぎ、ガスで視界がない中を笹子駅から 2 時間強を費やして山頂に到着。清八峠へは山頂から左に進み気味にくだって登り返せば行き着くと、あるかなしかのか細い道を正午に下りだした。しかし行けども 登り返しがなく、細い道が下り、そのうちに踏み跡も消えてしまった。ガスで展望は効かないが、下の方から部落の有線放送がかすかに聞こえるので、ガスの下には部落があると判断、鉄則には外れるが立木を頼りにがむしゃらに下っていくとガスが切れて杉の伐採地にでた。下の飯場を目指して、バリケードの様な杉の枝の山を越して

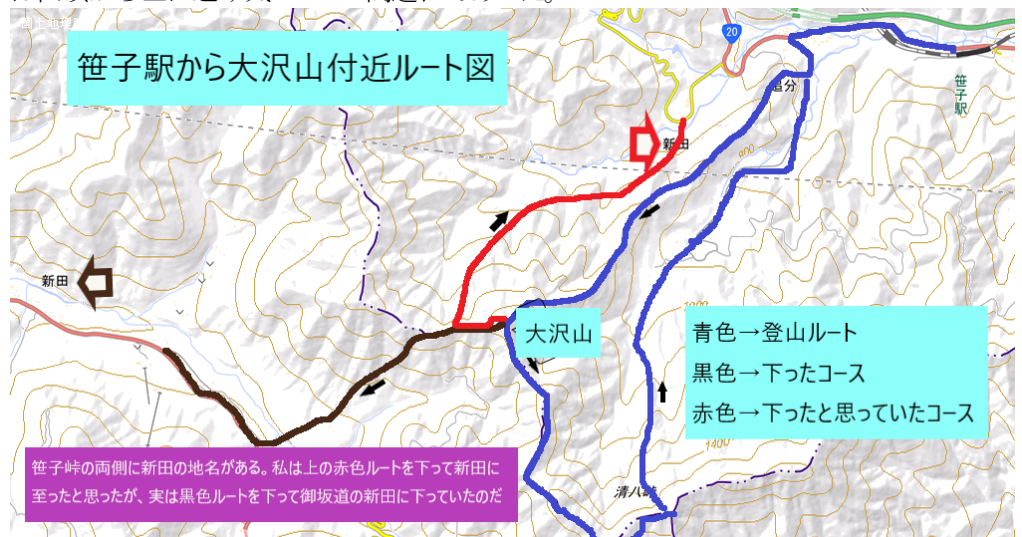
作業道に着いて時間を見ると午後 2 時を回っていたが、これで大丈夫だと一安心。

出合った人に現在地を聞くと、「新田」だとのこと。地図を見ると甲州街道も近い。これで午後 3 時過ぎの電車に乗れると安心して進むと車の多い大きな道路に出た。甲州街道だろう。もう 10 分で笹子駅だと思ったが、車道を進んで行くと谷間を下る甲州街道の両側に迫る山は確かに笹子近くの風景だが、見え出すはずの中央道も見えてこないのが気になる。代わりに左手にスキー場が現れた。

これは今歩いている道は甲州街道ではない！、どこか、焦った。村人は「新田」だと言った。確かに甲州街道沿いの現在地に「新田」なる地名が明記されている。そのうちに道路標識が出てきてそこには国道 137 号線と表示されているではないか。この道路は河口湖から甲府方面に北上する御坂街道だったのだ。

ではなぜ村人は「新田」と言ったのか。ガッカリして休憩して地図を見ると、何と御坂街道の出合いの所にも「新田」なる地名が記載されているではないか。

廻りの景色も、朝出発した笹子周辺と全く同じで、今の今まで自分は笹子へ向かっていると信じ切ったのも無理はない。しかも両方に誤解を招く「新田」なる地名があり、国道への位置関係も同じなのに驚いた。狐につままれた気分、途中からバスに乗って、塩山駅から帰宅した。とんでもない大回りで、家でビールを飲み干したのは 2 時間遅れであった。





● 酒蔵のまち（酒々井）と城下まち（佐倉）

NO1 3月20日 晴

参加者 L宇津木仁典、高橋正彦、小川和敏、節田重節、塩塚生二、新井好夫、竹園清孝、香高真奈美、黒住清美、國宗文、小林ユキ子、湯下正子

無人駅の南酒々井駅を出て、酒蔵「飯沼本家」そして「順天堂祈念館」を訪ねてみる。蘭医、佐藤泰然がここで開いた診療所があつた順天堂病院の始まりだと知る。旧堀田邸とそのお庭を堪能し佐倉城址へ。濃ピンクの寒緋桜や白木蓮が満開できれい！

本日のハイライト、竹林の中のひよどり坂、武家屋敷通りを歩き佐倉駅へ。都内から参加の松田支部長の御友人も笑顔で佐倉の街を堪能してくれたようでした。（香高真奈美記）



● 外濠公園～千鳥ヶ淵～上野公園・都内花見名所

NO2 4月10日 晴

参加者 L宇津木仁典、高橋正彦、中場義則、塩塚生二、小林ユキ子、吉田望

歩行距離13.4km、歩数22,845歩、消費カロリー536kcal、脂肪燃焼量38gのウォークであった。JR四ツ谷駅前で写真撮影後にスタート。素敵なウォーキング姿勢で外濠コースに入る。見附門の面影を一寸見て飯田橋駅西口横を経由して靖国神社敷地内へウォーク。敷地内の開花宣言標本木には桜の花は全く無い。散花宣言したのかな？外濠コース沿いの桜並木の桜の花々は、私たちウォーキング仲間を待つように、花々はちよっぴり残っていた。皇居のお堀に沿って千鳥ヶ淵沿いのコースに進み、北の丸公園に到着。今日は、昼食携行は「無し」であったので、公園内レストランで好みの昼食をとり「田安門」から公園外へ、御茶ノ水駅を経由してコース沿いの幾つもの神社仏閣に拝顔して「上野恩賜公園」ゴール。さすが江戸の観光名所、前の沢山な人々を避けてながらウォーキングして上野駅前に到着して解散宣言。生ビールは美味かった！！中ジョッキ一杯は200カロリーである。何杯飲んだか？



● 勇壮な成田太鼓祭りを見ながら

NO3 4月17日 晴

参加者 L宇津木仁典、高橋正彦、平出正美、塩塚生二、黒住清美、國宗文、大浦陽子

『知らない、見たことない』地域』をウォーキングして楽しかった。初参加のHさん感想。また、毎回参加のTさんは、歩行数28,000歩、距離18kmkcalで先週の「花見ウォーク」より歩いたなあー。スタートは成田駅前から表参道を歩いて成田山新大本堂前。53団体、約500名よる「千願華太鼓」3年ぶりの開催日であった。余韻を残して成田ニュータウン地を經由して「義民・佐倉宗吾」旧宅で17代から講話を拝聴。1653年に宗吾様と4人の子供様の処刑場と菩提寺へ参詣。京成・宗吾参道駅に解散地にゴール。鰻重(500kcal)等を食して消費以上をとり疲労回復した。



支部山行の予定

● 山行の心得 — リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。

また山岳保険には必ず加入してきてください。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名（続柄）、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策： 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められたルールに従うようにしましょう。

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	印刷版支部だよりに掲載
松田宏也	
三木雄三	
三田 博	
三田 芳江	
藤木玄三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美千代	

《 難度 》

W ウォーキング

A 整備され歩行 2～3 時間

B 歩行 5 時間前後

C 歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を

送信先: cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (7 月～12 月)

日 程	山 名	難度	備 考	リーダー	締 切
7 月 2 日(土)～4 日	大滝沢と蒲生岳	C	沢歩きと会津のmatterホルン登頂	三田	締め切り
7 月 3 日(日)～4 日	鬼怒沼	B	湿原の花見山行	松田	6 月 12 日(日)
7 月 16 日(土)	佐原ウォーク	W	小江戸の風情と大祭	宇津木	7 月 9 日(土)
7 月 16 日(土)～17 日	金石沢とチョキ	C	奥秩父、沢登りと溪中泊	三田	7 月 1 日(金)
7 月 23 日(土)～24 日	池の平湿原と箆ノ登山	B	夏の花めぐり (高峰高原の日大 WV 小屋泊)	松田	7 月 3 日(日)
7 月 23 日(土)	富士山五合目	B	自然学・「お中道」の不思議を探索	三木	7 月 16 日(土)
7 月 30 日(土)～31 日	湯檜曾川・東黒沢	D	シャワーを浴びて沢登り&沢下り	三田	6 月 30 日(木)
8 月 4 日(木)～7 日	奥穂高岳	D	涸沢からザイテングラード	今井	締め切り
8 月 11 日(木)	合同「山の日」イベント		田中陽希氏講演会・房総の山復興 PJ (千葉市民会館)		
8 月 17 日(水)	太郎山	B	平日山行 男体山の北西	小川	8 月 10 日(水)
8 月 20 日(土)	富士山昔道	B	1 合目 (馬返し) から 5 合目を歩く、下山はバス利用	三品	8 月 5 日(金)
8 月 21 日(日)～22 日	縞枯山	B	自然学:八ヶ岳の縞枯れ現象の謎を調べる。	三木	7 月 20 日(水)
8 月 26 日(金)～28 日	桃洞沢・赤水沢	D	秋田で沢登り。新幹線・レンタカー	三田	7 月 20 日(水)
9 月 3 日(土)	入笠山	B	入笠山と入笠湿原を散策、ゴンドラ利用	三品	8 月 19 日(金)
9 月 3 日(土)～4 日	八ヶ岳 阿弥陀岳	C	鉱泉もしくは行者泊	松田	8 月 5 日(金)
9 月 9 日(金)～10 日	焼岳	B	上高地付近に前泊予定	小川	8 月 5 日(金)

日本山岳会千葉支部

日 程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締 切
9 月 17 日(土)～18 日	北八ヶ岳	C	テントを担いで山歩き。初級テント泊。	今井	9 月 4 日(日)
9 月 18 日(日)	高尾山・6 号路	B	自然学：高尾の断層巡検	三木	9 月 11 日(日)
9 月 23 日(金)	いすみ市ウォーク	W	海岸周辺と裸祭り	宇津木	9 月 16 日(金)
9 月 24 日(土)～25 日	西吾妻山	B	グランデコからゴンドラ利用。民宿泊	三田	7 月 24 日(日)
10 月 2 日(日)	秩父・武甲山	C	表参道コース（車利用）	藤木	9 月 25 日(日)
10 月 9 日(日)～11 日	鳩待・尾瀬ヶ原・大清水	B	2 泊で尾瀬の紅葉をたっぷりのんびり楽しむ	松田	9 月 9 日(金)
10 月 12 日(水)	国師ヶ岳・北奥千丈岳	B	大弛峠から夢の庭園を廻ってのんびり紅葉を楽しむ。混雑を避けた平日登山。	今井	10 月 2 日(日)
10 月 15 日(土)	関八州見晴台	B	自然学：明るい山上集落	三木	10 月 8 日(土)
10 月 19 日(水)	鳴虫山	B	日光駅から徒歩で行ける山	宮崎	10 月 12 日(水)
10 月 21 日(金)～22 日	和名倉山	C	秩父の日本二百名山	小川	9 月 20 日(土)
10 月 23 日(日)	千葉市内ウォーク	W	世界最長の懸垂型軌道下を歩こう	宇津木	10 月 19 日(水)
10 月 29 日(土)～30 日	会津・七ヶ岳	C	黒森沢コースから全山周回・民宿泊	三田	8 月 29 日(月)
11 月 3 日(木)	人骨山・佐久間ダム	B	房総 Base にてロープとツエルト講習	三田	11 月 2 日(水)
11 月 5 日(土)	鹿野山古道⑥	B	日本山岳会 120 周年記念古道調査	山口	10 月 29 日(土)
11 月 5 日(土)～6 日	会津磐梯山	B	紅葉シーズン。民宿泊	松田	10 月 9 日(日)
11 月 6 日(日)	檜洞丸	C	マイカー利用	藤木	10 月 30 日(日)
11 月 12 日(土)	丹沢・仏果山	B	自然学：湖を横切る断層	三木	11 月 5 日(土)
11 月 12 日(土)	奥久慈・男体山	C	茨城の名峰・ロープ鎖場あり。マイカー	三田芳	11 月 3 日(木)
11 月 19 日(土)	子持山	B	7 号橋から	小川	11 月 10 日(木)
11 月 20 日(日)	鹿野山古道⑦	B	日本山岳会 120 周年記念古道調査	山口	11 月 13 日(日)
11 月 23 日(水)	房総・笹郷山	B	清和県民の森からマイナールート、読図	三田	11 月 16 日(水)
11 月 26 日(土)～27 日	4 支部懇談会（群馬支部）		詳細は後日		
11 月 27 日(日)	養老溪谷ウォーク	W	絶景の溪谷を歩こう	宇津木	11 月 22 日(火)
12 月 3 日(土)	扇山	C	晩秋の山歩きを楽しむ。	今井	11 月 6 日(日)
12 月 4 日(日)	銚子ウォーク	W	潮風と醤油の香りの道を歩こう	宇津木	11 月 30 日(水)
12 月 10 日(土)～11 日	忘年山行		内浦山県民の森に宿泊予定		
12 月 17 日(土)	六ツ石山	B	奥多摩三大急登	小川	12 月 1 日(木)
12 月 18 日(日)	赤城山	C	前夜発、雪山シーズンイン	三田	11 月 18 日(金)
12 月 28 日(水)～30 日	八ヶ岳 天狗岳	D	詳細は相談（日程調整も可）	松田	12 月 1 日(木)

※ W；ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。

メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

お知らせ



《事務局から》

●2022 年度役員分担

今年度の役員の役職と担当は下記の通り決まりました。

- ◇執行部； 松田宏也（支部長）山本哲夫（副支部長・山行・技術遭難対策）三田博（事務局長・山行委員長・沢登り同好会）三品京子（会計/事務局・山行）山口文嗣（古道 PT リーダー）小川和敏（広報委員長・山行）藤木玄三六（山行）
- ◇顧問・監事； 吉永英明（顧問）甘楽敦夫（監事）能美勝博（監事）
- ◇協力委員； 三木雄三（公益・自然学クラブ）上村紀子（山行）香高真奈美（公益）今井貴朗（山行）宇津木仁典（ウォーキングクラブ）三田芳江（山行）宮崎美智代（山行）

●遭難対策金について

山行の参加者がリーダーに支払う遭難対策金（200 円）は、遭難事故などの緊急時のために支部で積み立てられており、救助のための支援や安全対策に使用されます。山行の保険料や山行経費などには使われておりませんので、誤解されないようお願いいたします。

●役員会報告

- 3月報告 3月16日（水）リモート（松田、三田、小川、三品、上村、宇津木、今井、山本、山口、甘楽）
- ◇山行・行事報告 2/27 元清澄山、3/10 ミツバ岳、3/12 土浦と霞ヶ浦
- ◇山行行事予定 山の天気講習とライブ事業、奥高尾、笠森観音、桜ウォークなど
- ◇報告・検討事項 山の天気講習、山の日イベント進捗、来期役員改選、支部だより
- 4月報告 4月20日（水）リモート（松田、三田、小川、三品、宇津木、山本、今井、甘楽、上村）
- ◇山行・行事報告 3/26 山の天気講習 3/27 ライブ事業、3/30 桐生・吾妻山、4/2 奥高尾、4/9 笠森観音、4/10 東京の桜 W、4/10 岩櫃山、4/16 大塚山、4/17 成田山 W
- ◇山行・行事予定 栃木月山、三浦富士、滝子山、川苔山など
- ◇報告・検討事項 山の天気実施状況、支部総会、山の日イベント進捗
- 5月報告 5月18日（水）リモート（松田、三田、小川、三品、宇津木、今井、山本、山口、甘楽、能美、藤木）
- ◇山行・行事報告 4/23・24 栃木月山、5/1 川苔山
- ◇山行・行事予定 足和田山と富士樹海、高水三山、曲り沢、瑞牆山など
- ◇報告・検討事項 支部総会、房総の山復興プロジェクト（特別事業補助金認可）、山の日イベント進捗

●会員・会友の動向

《入会・会友》

H さん 市原市、W さん 横浜市、
K さん 東京都大田区、K さん 千葉県

《転入》

K さん 八街市（山梨支部から）

《退会》

会員：T さん、K さん、S さん、N さん、S さん
会友：S さん、K さん、S さん、F さん



編集後記；コロナの状況が若干ながら好転しているようです。が、引き続き、賢く防御しつつ山行が楽しめればと切に思います。暑い夏が始まります。熱中症にも気を付けて山へ出かけましょう。登山中は、ほかの方との距離に注意しつつ、マスクを外すべきかと思ひます。
津田沼のヨシキスポーツさんには SAC 教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思ひます。会員になると割引があります。（小川和敏）